

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

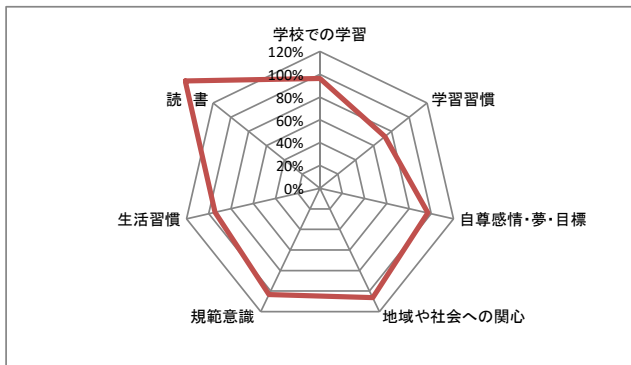
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが4領域のバランスがよく、大きく下回る領域はない。 無回答率が0%の問題が増えた。粘り強く問題を解こうとする態度が育っている。 記述式の問題は正答率が低く、無回答率が高い。 	下回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが4領域のバランスがよく、大きく下回る領域はない。 無回答率が0%の問題が多く、粘り強く問題を解こうとする態度が育っている。 記述式の問題は正答率が低く、無回答率が高い。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 「学校での学習」に関する回答は、全国平均とほぼ同等で、主体的に学習に取り組むことができている。
- 「規範意識」に関する回答は、全国平均を上回っている。
- 「読書」に関する回答は、全国平均を上回っている。
- 「学習習慣」に関する回答は全国平均を下回っており、家庭学習の習慣をつける必要がある。
- 「自分にはよいところがある」の回答は下回っている。
- 就寝時刻や起床時刻は安定しているが、朝食を食べない割合はやや高い。また、スマートフォン等の使用時間が長い傾向がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 宿題の内容や量について見直し、発達段階に応じて自学ノートの活用を図る。
- 授業の中で、自分の考えや解き方を書いたり、友達に説明したりする時間を意図的に設ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 朝食の大切さやスマートフォンの使用時間について、学校通信や学年通信、懇談会等で保護者に伝える。